

# 協力隊がゆく

51

こんにちは、空き家活用・移住定住担当の矢動丸です。山の木々が青々と茂り、初夏を感じる季節になりました。「高梁の初夏はとても暑い」と

多くの人から聞いていたのですが、晴れた日はまさにその通り。ですが、季節の移ろいを肌で感じる事ができ、それもまた高梁の魅力だなと感じています。

さて、先日、高梁城南高校の授業でお話しする機会をいただきました。「総合的な探求の時間」という授業で、生徒たちが自分の興味があるテーマについて研究したり、実践プロジェクトを行ったりする時間です。私は、「高梁の魅力と地域の空き家」についてお話ししました。私自身、高梁に引っ越してくる前は「高梁には何にもないよ」と聞いていましたが、実際に来てみると、歴史ある町並み、人の温かさ、地域ごとの特色、おいしい食べ物など…何もないどころかたくさんの魅力が詰まった場所であると感じ、これを多くの人に伝えていきたいと思いました。そのような経験があり、一身近



やどうまる 矢動丸 祐子 隊員

などところにこそ高梁の魅力があるかもしれない。「自分たちでも新しい魅力を作れるかもしれない」という思いをお話ししました。ま

た、年々増えていく空き家については、城下町エリアの町並み保存のことで、これから取り組みたい空き家活用についてお話しし、皆さん真剣に聞いてくださいました。今後も高校生の皆さんと、市内の空き家調査などのプロジェクトに取り組んでいきたいと思っています。

「教育」は移住定住を考える上でも重要なキーワードだと感じています。今回は高校でしたが、小学校や中学校の皆さんとも何か取り組むことができたと思います。



高梁城南高校での授業風景

## 「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋— ⑩

日本遺産に認定された「『ジャパンレッド』発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋—」のストーリーを構成する文化財を紹介します。

よしおかどうざんあと 吉岡銅山跡 未指定記念物(遺跡地)

吹屋の銅山の起源は、地元銅山師であった大塚家の文書などによると大同2(807)年とされています。当初、銅山の呼び名は「関東銅山」でしたが、江戸時代前半に「吉岡銅山」へと改められました。

江戸時代前期には泉屋吉左衛門(後の住友の祖)が経営を請け負い、西日本有数の銅山として繁栄しました。また、明治6(1873)年に岩崎弥太郎(三菱商会)が買収すると、巨大な資本力で洋式溶鉱炉などの近代西洋技術を導入し、明治時代後期～大正時代に最盛期を迎え、日本三大銅山の1つとなりました。吉岡銅山は三菱が手掛けた最初の金属鉱山であり、後の全国各地の鉱山開発の規範となりましたが、鉱脈の枯渇や第1次世界大戦後の不況、世界大恐慌の影響を受けて衰退し、昭和6(1931)年に閉山となりました。戦後、同25(1950)年に吉岡鉱業所として再開しましたが、同47(1972)年に再び閉鎖され、銅山としての歴史を閉じました。



吉岡銅山跡



トロッコ用のトンネル跡



☑高梁市日本遺産推進協議会事務局(日本遺産・歴まち推進室) ☎ 21-0257